

第10回エメックス会議 青少年環境教育交流セッション (SSP) 概要

Students and Schools Partnership Session

第10回エメックス会議 (EMECS10) における SSPセッションの参加者は、アメリカ (2名) ・トルコ (4名) ・日本 (2名) の計3カ国から計8名の学生と、環境学習に関わる行政官や指導者 (教師) 等の約15名でした。

日本からは兵庫県立国際高等学校1年生の山本仁湖さんと山陽女子高等学校2年生の中藤麻衣さんの2名が学生代表として参加しました。

1 SSPセッション：口頭発表

日 時： 2013年10月30日(水) 16:30~18:30

会 場： グランドヤズジ・クラブターバンホテル メインホールA

ワシントンカレッジ上席講師のウェイン・ベル氏が司会を務め、アメリカ・日本・トルコからの学生が発表を行いました。

【発表者と発表内容】

- 1) 山本仁湖 兵庫県立国際高等学校 (日本)
「尼崎の海・運河の環境改善から世界を変えたい」
- 2) Y. カリパルドック & Y. オズテキン ムーラ大学 (トルコ)
「トルコの沿岸域管理：私たちが望まない事象 (出来事)」
- 3) J. サリバン&C. オーリー ワシントンカレッジ (米国)
「総合学習とチェサピーク教室」
- 4) 中藤麻衣 山陽女子高等学校 (日本)
「瀬戸内海における海底ごみ問題の「見える化」プロジェクト」
- 5) F. セニューズ&K. オゼール ムーラ大学 (トルコ)
「沿岸域環境の保護・保全のための環境学習」

- 1) 兵庫県立国際高等学校の山本仁湖さんは、地元の行政機関や大学等との連携による大阪湾や尼崎運河の水質浄化への取組や環境改善への取組について、「循環」という言葉をキーワードに、回収した海藻や二枚貝の堆肥化、それを利用した作物栽培と収穫、菜の花栽培と食用油としての利用、その廃油をバイオオイルとして活用等、具体的な活動や成果の紹介、並びに、地域における活動の普及のための取組の紹介と今後の展開について発表しました。



- 2) トルコ ムーラ大学のY. カリパルドックさんとY. オズテキンさんは、トルコにおける沿岸域の環境管理について、無計画で規制がされていない宅地開発、養殖、検査官資質等を例に現況を紹介。また、学生の立場からの行政に対する希望として、沿岸管理や沿岸法の強化について発表しました。



- 3) アメリカ ワシントンカレッジのJ. サリバンさんとC. オーリーさんは、ワシントンカレッジの学生向け環境教育に関する学際的プログラムであるチェサピークベイ・セメスターについて、プログラムの環境教育へのユニークなアプローチ、その課題やメリット、および、その体験的教育スタイルが学生参加を活発化していることの定量的評価について具合例を用いながら紹介すると共に、プログラム



の環境教育への包括的な統合的アプローチの成果、並びに、現実の環境問題に対する類似した手法の実施の提案について発表しました。

- 4) 山陽女子高等学校の中藤麻衣さんは、2年前に同校が取組んだ瀬戸内海の海底ゴミ問題に関するゴミ回収活動やゴミ発生量減少のための地域社会への啓発活動を発展させ、第二弾として、地域社会の海底ゴミへの認識の低さを改善する策として、現状や問題を‘見える化’する取組を紹介、様々な取組を通じて人々の認識を得て、理解に繋げ、行動に移すという活動の内容について発表しました。



- 5) トルコ ムーラ大学のF. セニューズさんとK. オゼールさんは、沿岸域環境の保護・保全のための環境学習の取組を、Blue Flag Beach 活動の紹介等を通じて、学校や家庭における教授による環境教育の重要性について発表、さらに次世代としての責任の自覚に言及し自然環境保護における若者の活動への関与に関して発表をおこないました。



2 ポスターセッション

日 時： 2013年10月31日（木） 10:50～12:30
会 場： グランドヤズジ・クラブターバンホテル

SSPセッション参加者のポスター発表は以下の4作品です。

- (No. 1) 山本仁湖 兵庫県立国際高等学校 (日本)
「尼崎の海・運河の環境改善から世界を変えたい」
- (No. 2) Y. カリパルドック & Y. オズテキン ムーラ大学 (トルコ)
「トルコの沿岸域管理：私たちが望まない事象（出来事）」
- (No. 3) 中藤麻衣 山陽女子高等学校 (日本)
「瀬戸内海における海底ごみ問題の「見える化」プロジェクト」
- (No. 4) F. セニューズ&K. オゼール ムーラ大学 (トルコ)
「沿岸域環境の保護・保全のための環境学習」



3 エクスカーション

<エクスカーション I： Marmaris 沿岸海域の環境視察>

日 時： 2013年11月1日（金） 9:00～1:30
訪問先： マルマリス沿岸海域

今回のエクスカーション I では、トルコのムーラ県の沿岸海域（地中海）の状況について学ぶことを目的にボートツアーに出かけました。

このクルーズはマルマリス市の観光協会の担当者が案内役として同行してくれました。ハーバーを出航してから、湾側から陸地を眺め、街や城塞、ヨットハーバー等についてその歴史を含め説明を聞きました。自然豊かなキャンプ地や岩の浸食でできた洞穴を通過し、参加者はその海の色や海水の透明度の高さに驚きました。また、漁場でもありながら、同時に自然や景観もうまく守られていることに感心しました。



<エクスカージョンⅡ：ムーラ大学訪問>

日 時： 2013年11月2日（土） 9:00～1:30
訪問先： ムーラ大学

エクスカージョンⅡでは、ムーラ大学を訪問しました。大学訪問は、SSPセッション参加者のトルコ人学生が案内役を担いました。大学に到着すると先ず大学の講堂を視察しました。次に大学の博物館スペースを見学しました。展示スペースでギリシャ神話やローマ帝国時代に関係のある人物等の大理石像やレリーフが展示されていました。工学部は、今回の EMECS10 の実行委員長でもあるエルダール・オザーン博士が設立に尽力された学部で約 20 年前に設立されたそうです。大学内のイスラム教徒用のお祈りの場所（モスク）等、お国柄を反映した大学施設に他国の学生は新鮮な驚きを示していました。



4 SSP 宣言文発表

日 時： 2013年11月2日（土） 16:30～18:00
会 場： グランドヤズジ・クラブターバンホテル

青少年環境教育交流（SSP）宣言は、SSPセッションに参加した学生8名全員がステージに上がり宣言文を読み上げました。

今回の宣言文は、環境を受け継ぐ次の世代として、“Lessons Learned to Address New Challenges ~Global Communication in Action~（教訓から新たな挑戦へ ー行動におけるグローバルコミュニケーションー）”をテーマとしました。

学生達は宣言文を通して、政策立案者、専門家、科学者、教育者、利害関係者などの大人世代に対して若者と国際的なコミュニティのメンバーとの交流の促進、研究活動や実践的な経験への



若者の関与、環境改善に貢献できるように若者の取組や挑戦への指導や支援等の要望のみならず、大人側からの若者への要望、並びに、若者の環境改善に向けた挑戦や取組への期待というような要望も同時に学生達からのメッセージとして伝えました。

会場からの大きな拍手とスタンディングオベーションがあり、学生たちのメッセージは会場の参加者である大人の世代にしっかりと受け入れられました。

